

# 第1分科会

分科会名

## いっしょに語ろう！ ～地域で共に輝く若者と住民たち～

協議の柱

様々な想いを胸に若者たちは地域で活動し、住民の方々と交流しています。彼らが一步踏み出したきっかけやその活動とは？ 若者たちの“今”を知りながら、一緒に時間いっぱい語りませんか？

### 1 当日までの分科会運営委員会等での議論

皆さんは「地域」と「若者」という2つの単語が出された時、どのような印象を抱きますか？ 「少子高齢化や担い手不足といった課題が山積みの地域」と、「地域活性化に尽力する若者」。テレビや新聞等から見聞きした情報でそういった姿を頭の中で描いたり、「若いのによくがんばっているね」と思ったり口に出してしまったりすることはありませんか？

さて、この分科会の開催準備をするにあたり、運営委員の多くが「今の若者はどんな熱い情熱や志を抱いて地域おこしに協力しているのだろうか？」といったことを感じていました。しかし、実際の活動や始まりの経緯を知る方からお話を聞くと、彼らは地域おこしありきだけではなく、「自分はどういうことをやりたい」、「こういった楽しいことをしたい」という小さな想いから行動に移り、その結果として住民との交流や地域おこしにつながったケースもあることを知りました。

一方の若者達も、自身の活動をもっと多くの人に知ってもらいたい、共感してもらいたい、様々な経験を持つ方々との交流や意見交換をしたいと願っていることも分かってきました。

そこで、まず大学生や社会人になったばかりの世代が自主的に活動している様々な取り組みを知り、そして分科会に集った参加者全員が対等な立場で意見交換を行うことで、世代を超えたつながりを深めていきたいと思います。

### 2 分科会の進め方

前半は、それぞれの地域で活動している5つのグループの代表者から、地域で活動したいという考えに至ったきっかけ、具体的な内容、そして住民との関わり合いについて発表して頂きます。

後半は、分科会に集まった皆さんで、自由に・様々なことを・気軽な雑談感覚でおしゃべりしていきたいと思います。

世代を超えた交流から、お互い新しいことや楽しいことを見つけたり、それぞれの今後の活動に活かすきっかけになったりすればいいですね。

## 話題提供者

信州大学地域参画プロジェクト CHANGE 代表

内田 佑香 氏

## プロフィール

信州大学経法学部応用経済学科3年。信州大学地域参画プロジェクト CHANGE 代表。信州大学地域参画プロジェクト CHANGE は2018年3月、信州大学生がバス遅延解消に関する請願・陳情書を松本市議会に提出したことをきっかけに発足。活動目標「少しだけ。私たちのいるこの“まち”を、暮らしやすく、生きやすく、魅力的な場所へと変えていこう。」を掲げ活動。その他、信州大学の他サークルと繋がり、地域でのサークル活動をより良いものへと活動中。

## 「ロツピキ」

信州大学  
鈴木 七海

### 1 事業の概要

#### (1) 事業の背景・ねらい

「人と人をつなげる」をコンセプトに2016年より活動をしており、2021年5月に5周年を迎えた。空き家を改装してコミュニティスペースをオープン。イベントを通して、新たな出会いや化学反応がおきることを期待している。

#### (2) 具体的な取り組み内容

2021年度は、単発でのイベントを中心に活動している。例えば、福島第一原子力発電所に行った方による講演会、松本県ヶ丘高校の生徒と共同で自習室の開室、メンバーによる個展を行った。

### 2 話し合い判断し行動に移したプロセス

#### (1) 誰がどのように話し合い、企画・判断し行動に移したか

メンバーによる会議（月1回程度）で、メンバー自身がやりたいことを挙げる。その中から実現可能なのか、また時期などを考慮してイベントを企画・開催する。

#### (2) 他との協力・連携・協働など

ロツピキが所在する萩町地域の方、特に公民館長の辻さんには平素より協力していただいている。また、今年度は県ヶ丘高校の生徒さんと協力してイベントを開催した。

### 3 成果・課題と今後の展望

#### (1) 事業や実践に対する成果と課題

新型コロナの影響で定番のイベントであった「ご飯会」ができず、交流会も多く開催できていない。それにより認知度の低下とウィズコロナの時代での居場所のあり方が課題。

#### (2) 今後の方向性

信大生への認知度の拡大とイベント利用スペースの貸出を増やす。また、学生が気軽に集まる場所として使える場作りを進めていく。

## 「ボヘミアン珈琲」

信州大学  
高宮 充

### 1 事業の概要

2019年、信州大学周辺に人が集まれる場所がないといった課題から発足。信州大学松本キャンパス生協前広場にてコーヒーを投げ銭で振る舞うことや、（現在は新型コロナウイルス感染拡大により休止）長野県内各地のイベントに出張してコーヒーを淹れている。人と人との「つながり」を一緒にコーヒーを飲むことで生み出している。

### 2 事業の成果

浅間温泉の朝市「あさま湯芽市」に出店。2019年冬、浅間温泉「わいわい広場」にてクリスマスコンサート開催。松原モール「クリスマスモール」に出店。2020年2月時点で県内外での出店数32回。

# 「奈川えんがわプロジェクト」

信州大学  
東 大陽

## 1 事業の概要

### (1) 事業の背景・ねらい

松本市に属しながら市内でも奈川地区について知らない人が多いことを疑問に思い、学生が奈川地区に入ること  
で何か一緒にできないかと感じた。信州大学生有志が、奈川地区で自分たちが実際に様々な体験をおこない、地区  
外の人に奈川の魅力を知ってもらうために活動している。信州大学の奈川地区について取り扱った講義の受講生と  
有志によって発足した。奈川地区の魅力を発信すべく、まずは自分たちから奈川地区のイベント等に参加してい  
る。

### (2) 具体的な取り組み内容

2021年度（1年目）は、改めて奈川地区を知ることから始めた。具体的には、保平かぶの種取りから収穫に携わ  
ったり、クライנגルテンを視察したりと、奈川地区の資源を知るための活動を行った。

## 2 話し合い判断し行動に移したプロセス

### (1) 誰がどのように話し合い、企画・判断し行動に移したか

基本的には、“まずは自分たちが楽しむこと”を第1とし、メンバーがやりたいことをメンバーの都合が合う日  
に話し合い計画し、実行していくスタイルをとっている。

### (2) 他との協力・連携・協働など

松本市役所地域づくり課のユース担当の方にサポートについてもらい、奈川地区地域づくりセンターを窓口  
に、奈川との調整やこちらからの連絡共有を行っている。

## 3 成果・課題と今後の展望

### (1) 事業や実践に対する成果と課題

現段階でこれまでの活動に関して評価をするべきでないと考えている。深く将来を考えるのではなく、学生が入  
ることで“今をより楽しくしたい”という方向に修正して活動する。

### (2) 今後の方向性

月に一度は、奈川へ行き、地域の人々の声を聞きながら一緒に楽しく、より充実した活動、生活を送れるように企  
画を考え実行していきたい。

# 「銭湯サークル」

信州大学  
杉橋 雅優

## 1 事業の概要

学生の力で地元の銭湯を応援したい。市内に残る地域密着型の昔ながらの銭湯四カ所において、営業終了後の掃  
除や燃料になる薪割り、イベントの手伝いを行っている。

2020年秋から学生有志で活動をしている。現在の主な活動場所は、駒形の湯（宮淵）、塩井乃湯（大手）、富士の  
湯（本庄）、みのるの湯（南松本）。

# 「松本市地域づくりインターン」

松本大学  
平林 洸

## 1 事業の概要

### (1) 事業の背景・ねらい

平成27年度から、若者が地域づくり活動に参加することで地域活動が活性化していくことと、若者が地域での活動を通して成長することを支援していく事業として、松本市と松本大学が協働して実施している。

### (2) 具体的な取り組み内容

ア 入山辺地区を事例として中山間地で住民による主体的な地域づくり活動について調査（こんな山辺にするじゃん会）

イ 若者の地域づくり活動に関わるきっかけについて（U I J ターン移住者の暮らしの調査や学生参加イベントの開催）

## 2 話し合い判断し行動に移したプロセス

### (1) 誰がどのように話し合い、企画・判断し行動に移したか

インターン生と担当教員が研究調査方針を検討・打合せをして実施している。

### (2) 他との協力・連携・協働など

松本大学、信州大学（有志）、上土町、こんな山辺にするじゃん会

## 3 成果・課題と今後の展望

### (1) 事業や実践に対する成果と課題

成果としては、地域への若者の呼び込みに成功（シェアハウス入居、ブドウ作業アルバイトの参加、狩猟フィールドとして利用）課題としては、地域への移住定住者を増やす。入山辺地区を若者が活躍できる場にしていく。

### (2) 今後の方向性

松本市地域づくりインターン事業は、今年度で終了であるが、この活動で培った地域とのつながりを絶やさずに今後も入山辺で若者が地域と関わることができる活動を実施したい。